

①2017年度 大学院共通科目(正課科目)

NO	開設科目名称	クラス	学習目標 【自研科目開設 科目での履修】	「他研科目受講制度での履修」	科目概要	開講 キャンパス	開講期間	曜日	時間	教室	授業コード	受講登録における注意事項	
1	知的所有権特論	00	理工学研究科	理工学研究科以外の研究科	特許明や著作物等に係る知的所有権に関する知識は、我が国の産業経済の活性化のため、大学・企業人にとって極めて重要な資産となっている。また、産・官・学連携により、大学で生まれる基本発明をもとにしたベンチャーの起業が期待されている。研究開発の中から優れた発明を認め、適正な保護及び利用が図られなければならない。この講義では、実務上の事例をもとに知的所有権の基本的知識を習得する。	BKC	後期	火曜日	4時限目	コラーニングハウス1302教室	80460		
2	情報処理統計学Ⅰ	S	社会学研究科	社会学研究科以外の研究科	SPSSやSASなどのデータ解析のアプリケーションは社会学において、今後ますます盛んに利用されると思われる。しかし、これらを利用する場合には、その前提となるデータ解析法の理論的基礎の理解が必要とされる。本講では、推測統計学を中心にデータ解析法の数理的な基礎について、演習形式も用いながら理解を深めていくことを目的とする。※但し、受講者20名以下の条件つき開講	衣笠	前期	火曜日	3時限目	以学館 演習・実習準備室2	70258	受講者定員20名です。受講申込者数が20名を超える場合は、「他研科目受講科目受講履修」の受講理由などを添えて担当教員が選考いたします。※社会学研究科の大学院生を優先します。	
3	統計解析演習Ⅰ	L	文学研究科	文学研究科以外の研究科	この演習では、基本的な記述統計法を学んだ後、群間の平均値の比較を目的とした推測統計法を学ぶことが目的である。前者には、代表値、散布度、相関の指標、および、データの標準化などが含まれる。後者は、2群の平均値の検定をはじめ、様々な実験デザインに合わせた分散分析法が含まれる。記述統計法は、理科系だけでなく、文科系大学院にとって重要な方法論であり、また、推測統計法、その中でも、分散分析法は、特に実験系の心理学研究をはじめ、系統的に収集されたデータの平均値を群間で比較する際に必須となる。	衣笠	前期	水曜日	5時限目	有心館 情報学演習室1	71223	71223	
4	統計解析演習Ⅱ	L	文学研究科	文学研究科以外の研究科	この演習では、多変量解析の諸方法を学ぶことが目的である。多変量解析とは、多変量のデータを分析するための統計法の総称である。ここで、多変量データとは、1つの個体から複数の変数を測定して得られるデータをさす。例えば、複数の項目や質問からなる性格テストや調査アンケートは多変量データの例である。多変量解析には種々の目的を持つ方法に分かれるが、目的を達成し、(1)空間的構造を、(2)因果関係の分析、(3)分類に分けられる。(1)は把握が難しい多変量データの構造を、空間的・視覚的に表現すること。(2)は変数どうしの原因-結果の関係を探ること。(3)は個体や変数をグループ化することといえる。こうした多変量解析の諸方法をできるだけ平易に解説する。	衣笠	後期	水曜日	5時限目	有心館 情報学演習室1	71697	71697	
5	情報処理特講	RA	国際関係研究科	国際関係研究科以外の研究科	研究に必要な環境を整えることを目的に、立命館の研究資源を活用し、研究スキルを向上させることを目指す。具体的な内容は、学内外図書館や立命館の提供するオンラインデータベースによる研究資料のフルフル利用、パソコン基本ソフトや統計処理ソフトの活用などである。論文作成・研究発表・実地調査研究等に活用し、実習を受けて学ぶ。その結果、大学院生としての研究環境を整え、図書館や立命館の提供するデータベースサービスを十分に利用する情報処理や統計分析スキルを向上させる	衣笠	前期	金曜日	2時限目	恒心館734号(デジタルセミナー)	70573	70573	
6	アカデミックスキルⅠ	L1	文学研究科	文学研究科以外の研究科	この講義では、研究を行う上で必要な基本的能力の習得を目標とし、研究計画の立案から、学会発表および論文執筆までに必要な研究能力を高めるための指導を行う。授業は、以下の内容で行う。1. 研究におけるライティング、2. 文献レビュー、3. データベースの使い方、4. 研究における倫理、5. サンプリング、研究の妥当性・信頼性、6. 研究成果の発表とプレゼンテーション、7. 質的研究	衣笠	後期	木曜日	6時限目	有心館 情報学演習室1	71225	71225	
7	アカデミックスキルⅡ	L1	文学研究科	文学研究科以外の研究科	この講義では、ウェブから学術情報を発信するために必要な知識と技能の習得を目指す。また、受講生が自らのホームページを完成し、実際に運営を行う能力を身につけることを目標とする。内容は以下の通りである。1. 個人HPをつくる前に知るべきこと、2. 各種資料の活用などの用法、3. ネット上の執筆、4. リソースの使い方、5. 事例から学ぶ。	衣笠	前期	木曜日	5時限目	有心館 情報学演習室1	71699	71699	
8	学芸員のためのデジタル技術	L	文学研究科	文学研究科以外の研究科	急速に変化するデジタル環境の中で、学芸員の仕事にもデジタル技術の導入が必要となってきた。本講義では、学芸員がデジタル技術の活用を促進するための手法の修得が目的である。今年度は、とくにデジタルカメラ等によってデジタル画像を作成し、それを使いこなす技術を学ぶ。	衣笠	後期	火曜日	4時限目	有心館 情報学演習室1	71692	71692	
9	博物館コミュニケーション論	L1	文学研究科	文学研究科以外の研究科	この講義では、博物館・美術館の伝統的なものや最新のものの歴史と現状について授業するとともに、博物館・美術館の将来像について考察する。博物館・美術館の現状を具体的に認識し、将来像を考へる基礎となる知識の獲得を目指す。	衣笠	前期	月曜日	4時限目	敬学館214号教室	71224	71224	
10	特殊講義(外書講読-英語ディスカッション)	MA	MOT	テクノロジー・マネジメント研究科以外の研究科	ブランドマーケティングに関する英語書籍「B2B Brand Management: The Success Dimensions of Business Brands」Philip Kotler, Waldemar Pfoertschを輪読し、英語書籍に記載の理論等によりプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。B2Bにおけるブランドマーケティングについて学び、B2Bにおけるブランドマーケティングの共通点や相違点、英語書籍の読み方を毎回振り返りながら、各担当者が次回までに読み込みを行い、次回の授業で内容を発表する。	OIC	第3クォーター	火曜日	2時限目、3時限目	AC348セミナールーム	91033	91033	
11	科学技術表現	01	理工学研究科	理工学研究科以外の研究科	(基礎理工学専攻・物理科学コース)本講義は、個々の学生が物理学に関する自らに研究についての発表すること、また他者の発表に対して議論を行うための力をつけることを目的とする。具体的には、発表を中心に行い、受講生が「ログブック」を用いてプレゼンテーションを行った後、他の受講生らに教員との質疑応答を行う。プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の向上を目指す。※「科学技術表現」はクラスごとに専攻の授業にひきつけた内容になります。	BKC	前期	水曜日	6時限目	フォレストハウス111号教室	80293	80293	
12	科学技術表現	02	理工学研究科	理工学研究科以外の研究科	(電子システム専攻)本講義は、論文発表に必要な基本事項について説明する。講義内容は学会での口頭発表、学会誌へ論文発表を行うための基本技術、論文発表に必要な基本事項について説明する。最終目標は科学技術表現に必要な文の構造と文章の流れについて演習問題を行いながら体得することである。※「科学技術表現」はクラスごとに専攻の授業にひきつけた内容になります。	BKC	前期	火曜日	3時限目	フォレストハウス108号教室	80294	80294	
13	科学技術表現	03	理工学研究科	理工学研究科以外の研究科	(電子システム専攻)本講義は、論文発表に必要な基本事項について説明する。講義内容は学会での口頭発表、学会誌へ論文発表を行うための基本技術、論文発表に必要な基本事項について説明する。最終目標は科学技術表現に必要な文の構造と文章の流れについて演習問題を行いながら体得することである。※「科学技術表現」はクラスごとに専攻の授業にひきつけた内容になります。	BKC	前期	火曜日	3時限目	フォレストハウス112号教室	80295	80295	
14	科学技術表現	04	理工学研究科	理工学研究科以外の研究科	(機械システム専攻)本講義は、科学技術に関する知見や研究成果を他者に対して公表する際に必要となる表現技術、表現方法について解説する。講義内容は、科学技術の研究成果を論文として公表する場合に必要な表現形式と表現技術、および、口頭発表する場合に必要な表現技術と表現方法に関するものである。最終目標は、論文発表のための標準的表現技術および口頭発表のための標準的表現技術の習得である。※「科学技術表現」はクラスごとに専攻の授業にひきつけた内容になります。	BKC	前期	月曜日	3時限目	フォレストハウス205号教室	80296	80296	
15	科学技術表現	05	理工学研究科	理工学研究科以外の研究科	(環境都市専攻)本講義は、学術論文を執筆するにあたって必要となるプロセスや手順、文章の構成方法や図表の表現方法など、科学技術文書を作成するための表現方法について解説する。講義の趣旨として演習問題に取り組みながら、文章表現だけでなくポスター発表やプレゼンテーション・技術についても学ぶことにより、学術論文のみならず、社会においても広く役立つ学術的、理論的な表現能力の修得を目標とする。※「科学技術表現」はクラスごとに専攻の授業にひきつけた内容になります。	BKC	前期	水曜日	4時限目	トリシア環境都市系演習室2	80297	80297	
16	技術革新と高度産業社会	00	理工学研究科	理工学研究科以外の研究科	本講義では日本産業界のInnovationとGlobalizationについて解説する。さらには若き研究者が近い将来、Globalに活躍するためのKnowledge, Informationにも言及し、今後産業界が望む人材像についても理解を深める。	BKC	後期	火曜日	2時限目	コラーニング I 402号教室	80463	80463	
17	科学技術表現	A	生命科学研究科	生命科学研究科以外の研究科	本講義は、科学技術に関する知見や研究成果を他者に対して公表する際に必要となる表現技術、表現方法について解説し、発信するための基礎的知識を講義する。講義内容は、科学技術の研究成果を論文として公表する場合に必要な表現形式と表現技術、および、口頭発表する場合に必要な表現技術と表現方法に関するものである。授業ではオーラル・プレゼンテーション、ビジュアル・プレゼンテーション、発表アビリティ、ポスター・プレゼンテーションの各手法を具体的に学ぶが、自らの研究内容をそれぞれの手段で表現する演習を通して、各手法に習熟し、プレゼンテーション能力の改善と向上を目指す。授業は講義形式と演習形式で行い、プレゼンテーションは日本語と英語の双方で行う。	BKC	前期	木曜日	5時限目	フォレストハウス 202号教室	81058	81058	
18	産業・医療管理特論	A	生命科学研究科	生命科学研究科以外の研究科	ライフサイエンスに関連する企業の研究開発や経営管理、あるいは病院での医療に従事している方をアシストセンターとしてお招きし、化学、環境、エネルギー、食料、医薬、医療に関する最先端研究、最新開発、経営戦略に関するセッションを実施し、その中で講義していただく、社会の現場の状況についての理解を深め、自分自身の研究と社会がどのように繋がっているのかを知り、将来のキャリアパス形成に役立てる。また、研究開発に対する意識の涵養も図る。	BKC	前期	金曜日	3時限目	フォレストハウス 202号教室	81059	81059	
19	知的所有権特論	A	生命科学研究科	生命科学研究科以外の研究科	著作物等の知的財産は、人間の創造的活動の成果である。この知的財産は、財産的価値を有する情報であり、模倣されやすい上に、多くの者が同時に利用できる。このため、著作権者の権利を保護するために、知的財産権制度が整備されている。わが国では、「知的財産法」の制定を目的に、「産業振興法」として様々な施策が進められてきた。産官学連携の推進等、知的財産を取り巻く環境の変化は目覚ましい。知的財産権制度の活用は、わが国経済の活性化だけでなく、企業や大学・研究機関において重要な役割を果たす。この科目では、創造的活動の成果である知的財産を経済活動において有効に活用していくために、知的財産権制度に関する基礎的な知識を習得する。	BKC	後期	水曜日	4時限目	フォレストハウス 102号教室	81173	81173	
20	実践英語Ⅰ	L1	文学研究科	文学研究科以外の研究科	この演習は、前期に引きつづき、大学院生として必要な読む力、聞く力、書く力、話す力を伸ばすこと、語彙力の増強をねらいとする。授業を通して、英語で書かれた専門分野の文献を読む力、英語で論文を書く力、自分が専門とする領域について英語で議論する力の向上を目指す。学術的な内容の英文を正確に読めるようになる。英語で論文を作成できるようになる。学術的な内容の英文を聞いて理解できるようになる。自分が専門とする領域について、英語で口頭発表ができるようになる。	衣笠	前期	水曜日	3時限目	研心館642号教室	71227	71227	
21	実践英語Ⅱ	L1	文学研究科	文学研究科以外の研究科	この演習は、前期に引きつづき、大学院生として必要な読む力、聞く力、書く力、話す力を伸ばすこと、語彙力の増強をねらいとする。授業を通して、英語で書かれた専門分野の文献を読む力、英語で論文を書く力、自分が専門とする領域について英語で議論する力の向上を目指す。学術的な内容の英文を正確に読めるようになる。英語で論文を作成できるようになる。学術的な内容の英文を聞いて理解できるようになる。自分が専門とする領域について、英語で口頭発表ができるようになる。	衣笠	後期	水曜日	3時限目	研心館642号教室	71702	71702	
22	英語コミュニケーション演習Ⅰ	KA	言語研	言語教育情報研究科以外の研究科	基本的アカデミックプレゼンテーションとライティング The main focus of this class is to strengthen students speaking, reading and writing skills by exposing them to a variety of literary, scientific and creative sources connected with enriching and nourishing both the mind and body. The instructor will provide students with classic examples of writing from a variety of genres. Students will be expected to present findings, research, impressions toward the end of the semester. This course is non-religious and non-sectarian, but built upon many insights and practices from contemplative traditions.	衣笠	土曜日	1時限目	創思館312	72360	72360	受講者15名以下の条件つきで開講します。受講申込者数が15名を超える場合は、「他研科目受講科目受講履修」の受講理由などを添えて担当教員が選考いたします。※言語教育情報研究科の大学院生を優先します。	
23	英語コミュニケーション演習Ⅱ	KA	言語研	言語教育情報研究科以外の研究科	アカデミックリーディング Reading within a narrow field is one way to develop fluency in reading. The teacher will suggest non-fiction books to students. One book must be chosen and read steadily through the semester. This book should match the students' own interests, so motivation remains high. Students may also select a fiction book, if they have a good reason.	衣笠	後期	水曜日	7時限目	創思館410	72467	72467	受講者15名以下の条件つきで開講します。受講申込者数が15名を超える場合は、「他研科目受講科目受講履修」の受講理由などを添えて担当教員が選考いたします。※言語教育情報研究科の大学院生を優先します。
24	人文学の最前線	LE	大学院共通科目「日本論」の受講登録について 参照		加藤周一「夕陽楽語」を読む(上) 2016年度、衣笠キャンパスに新書館が開校されるにあわせて「加藤周一文庫」が図書館内に開設される。加藤周一は戦後日本を代表する国際的知識人であり、本学国際関係学部で客員教授を務めた人物である。加藤には大きな二つの仕事がある。ひとつは国際的な視野の下の日本文化研究である。その代表的な作品には『日本文学史序説』や『日本、その心』がある。『日本文学史序説』は『日本文学』に連載され、海外の日本文化研究者の必読文庫である。もうひとつは『コラム』を執筆する仕事だった。その代表的なものが『朝日新聞』に24年間連載した『夕陽楽語』である。コラムであるから時評的性格も持っているが、加藤のコラムは時評にとどまらず、文学・芸術・科学・宗教にまで及ぶ。この『夕陽楽語』を読むことを通じて、加藤の思想的国際性とは何かをもとめながら学ぶ。教員としては、今春に刊行される『ちくま文庫版』(全3冊)が『夕陽楽語』のすべてを網羅するので、これを用いることとする。	衣笠	前期	木曜日	4時限目	清心館534号教室	大学院共通科目「日本論」の受講登録について参照 71233	日本論について、所属する研究科により「授業コード」が異なります。研究科毎の授業コードについては、「日本論の受講登録」についてを参照してください。	
25	人文学の最前線	LH			加藤周一「夕陽楽語」を読む(下) 前期に引きつづいて加藤周一の『夕陽楽語』を読むことを主眼とする。加藤のコラムの特徴は、前期の説明にも述べたことだが、主題とする範囲が極めて広いことである。しかし、それだけでなく、取りあげられるいくつかの題材を相互に関連させ、たえず体系的関連のなかで、重層的問題を明かしながら論議する特徴的スタイルがある。本講義では、理解するために、ドイツの哲学者ハイデガーと比較し、ハンフリーの作曲家バルトックを引証する。そういう手法をとることによって、問題の構造が鮮やかに浮き上がり、かつ日本の問題も国際的視野の下で理解する方法になっていく。加藤の「コラム」を読めば、あたかもバロンの音楽のように、あかたも「聖堂」の建築のように、構造をもった文章であることが理解できる。文体とは、すなわち思考の様式であり、加藤の文体を読むことを通じて、国際性をもった加藤の思考を学ぶ。それは、これからの知識人にとって、国際性をもった思考を身につけることが不可欠な作業だからである。	衣笠	後期	木曜日	4時限目	清心館534号教室	大学院共通科目「日本論」の受講登録について参照 71706	日本論について、所属する研究科により「授業コード」が異なります。研究科毎の授業コードについては、「日本論の受講登録」についてを参照してください。	
26	Japan in World History	R			A political and cultural approach to the contribution of Japan to World History. From the first encounter with the Portuguese (mid-sixteenth century) and the commercial and intellectual relations with the Dutch during the period of seclusion (mid-seventeenth - mid-nineteenth century), to the opening and modernization of the country, the "japanist" period in the West and the unfortunate path to Second World War. Students will be encouraged to reflect and comment on the contribution of Japan to World History. Active participation to the class and preparation of personal presentations related to the subject of the course is expected.	衣笠	前期	水曜日	3時限目	恒心館727号教室	大学院共通科目「日本論」の受講登録について参照 70634	日本論について、所属する研究科により「授業コード」が異なります。研究科毎の授業コードについては、「日本論の受講登録」についてを参照してください。	

2017年度大学院共通科目「日本論」の受講登録について

研究科により、授業コードが異なります。下表を参照して所属研究科の授業コードを登録してください。
 掲示物、オンラインシラバスには日本論とは表示されず、下表の科目名で表示されますので、留意してください。

研究科	日本論Ⅰ (文学研究科)	日本論Ⅱ (文学研究科)	日本論Ⅲ (国際関係研究科)	受講登録
法学	法政特殊講義Q1 (授業コード：71424)	法政特殊講義Q2 (授業コード：71886)	法政特殊講義Q3 (授業コード：70711)	「自研究科開設科目での履修」
社会学	応用社会学講義SA (授業コード：71422)	応用社会学講義SB (授業コード：71884)	応用社会学講義SC (授業コード：70703)	
国際関係	日本論RA (授業コード：71423)	日本論RB (授業コード：71885)	Japan in World History R (授業コード：70634)	
文学	人文学の最前線 LE (授業コード：71233)	人文学の最前線 LH (授業コード：71706)	人文学の最前線 LD (授業コード：70834)	
薬学研究科、法務研究科、情報理工学研究科を 除くその他の研究科*	人文学の最前線 LE (授業コード：71233) ※他研究科受講	人文学の最前線 LH (授業コード：71706) ※他研究科受講	Japan in World History R (授業コード：70634) ※他研究科受講	「他研究科受講制度での履修」
薬学研究科、法務研究科、情報理工学研究科	受講不可			

※日本論Ⅲの授業は英語により行います。